

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

| | 項目数 |
|--------------------------------|------------------|
| I. 理念に基づく運営 | <u>11</u> |
| 1. 理念の共有 | 2 |
| 2. 地域との支えあい | 1 |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | 3 |
| 4. 理念を実践するための体制 | 3 |
| 5. 人材の育成と支援 | 2 |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | <u>2</u> |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | 1 |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | 1 |
| III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | <u>6</u> |
| 1. 一人ひとりの把握 | 1 |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | 2 |
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援 | 1 |
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | 2 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | <u>11</u> |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | 9 |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | 2 |
| 合計 | <u>30</u> |

| | |
|-------|---------------------|
| 事業所番号 | 2375601594 |
| 法人名 | 有限会社ライフエール |
| 事業所名 | グループホーム悠縁 |
| 訪問調査日 | 平成 21 年 3 月 17 日 |
| 評価確定日 | 平成 21 年 4 月 10 日 |
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人『サークル・福寿草』 |

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

| | |
|-------|-----------------------------------------|
| 事業所番号 | 2375601594 |
| 法人名 | 有限会社ライフエール |
| 事業所名 | グループホーム悠縁 |
| 所在地 | 愛知県愛西市甘村井町勘十田割21-2 (電話) 0567-24-7377 |

| | | | |
|-------|----------------------------|-------|------------|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人『サークル・福寿草』 | | |
| 所在地 | 愛知県名古屋市中村区松原町一丁目24番地N203号室 | | |
| 訪問調査日 | 平成21年3月17日 | 評価確定日 | 平成21年4月10日 |

【情報提供票より】(21年2月1日事業所記入)

(1) 組織概要

| | | | |
|-------|-----------------|--------------------------------|------|
| 開設年月日 | 平成 17 年 4 月 1 日 | | |
| ユニット数 | 2 ユニット | 利用定員数計 | 18 人 |
| 職員数 | 17 人 | 常勤 4 人, 非常勤 13 人, 常勤換算 12.59 人 | |

(2) 建物概要

| | |
|------|--------------------|
| 建物構造 | 計量鉄骨 造り |
| | 2 階建ての 1 階 ~ 2 階部分 |

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

| | | | | |
|---------------------|------------------|----------------|----------|---|
| 家賃(平均月額) | 45,000 円 | その他の経費(月額) | 32,500 円 | |
| 敷 金 | 無 | | | |
| 保証金の有無 (入居一時金含む) | 有(150,000円) | 有りの場合 償却の有無 | 無 | |
| 食材料費 | 朝食 | 円 | 昼食 | 円 |
| | 夕食 | 円 | おやつ | 円 |
| | または1日当たり 1,540 円 | | | |

(4) 利用者の概要(2月1日現在)

| | | | | | |
|-------|-----------|------|------|----|------|
| 利用者人数 | 17 名 | 男性 | 6 名 | 女性 | 11 名 |
| 要介護1 | 2 名 | 要介護2 | 4 名 | | |
| 要介護3 | 9 名 | 要介護4 | 0 名 | | |
| 要介護5 | 2 名 | 要支援2 | 0 名 | | |
| 年齢 | 平均 80.3 歳 | 最低 | 69 歳 | 最高 | 93 歳 |

(5) 協力医療機関

| | |
|---------|---------------------|
| 協力医療機関名 | 津島市民病院、加賀医院、佐藤歯科診療所 |
|---------|---------------------|

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「グループホーム悠縁」は、小規模多機能型居宅介護、通所介護、認知症対応型通所介護の複合介護施設内にあり、周辺には、畑、田圃、ハウス栽培農業地の広がるのどかな地域の一角にある。『共に生きる時間を共有し、地域の中であたりまえ(普通の暮らし)があたりまえであってほしい』という理念でホームは運営されており、利用者が生活環境をなるべく変えず、日中は、できるだけ活動的に過ごし、全員が大きな一つの家族として、利用者本位の生活ができるようにしている。さらにホームでは、薬に頼らない学習療法、温あん法、水分補給、口腔ケア、腹部マッサージ、生活機能訓練等による当たり前の生活に日々取り組んでいる。ホームでは、医療連携体制と協力医療機関との連携で、利用者が安心して最期を迎えることができるように、ターミナル期のサポート体制も確立している。このような様々な取り組みを通じ、利用者、家族のための力強い味方となっている。

【重点項目への取り組み状況】

| | |
|-----------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 重点項目 ① | 前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 課題となっていた献立内容を糖尿病食から普通食に変更することについては、全員普通食に変更し、どうしても必要な場合には、調理過程で該当部分を取り分け、別に調理を進めるよう工夫している。避難訓練の実施については、2階からの脱出には職員みずから非常階段に布団を用いて利用者負担がないか確認を試みて複数の案を試した。職員が対応すべき手順を確実に実施できるよう訓練を行っている。 |
| | 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価には職員全員が参加し、職員一人ひとりの意見を取り入れ、各フロアリーダーがまとめを行った。課題を職員全員が共通認識として把握し、改善に向けての取り組みを進めている。 |
| 重点項目 ② | 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議では、事業所の運営状況、行事のお知らせ、外部評価についての報告、説明を行った。外部からは、市役所職員や民生委員・地域住民代表等の出席があり、様々な立場の意見、要望を受け、意見交換し、その内容を記録している。記録をもとに職員会議で話し合い、経営者・幹部職員・現場職員が一体となってサービス向上に活用している。 |
| 重点項目 ③ | 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族の意見、苦情、不安等は、家族が来訪したときに気軽に話してもらえぬ雰囲気づくりをしている。重要事項説明書に相談窓口を明記し、電話での相談にはいつでも対応している。玄関に意見箱を設置し、直接言い難いことは意見箱に投函してもらうようにしている。出された意見については、職員全員で話し合い、運営に反映させるようにしている。 |
| 重点項目 ④ | 日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域の人々に「悠縁」をより良く知ってもらうため、機関紙「縁だより」を発行し、地域の回覧板に添付し回覧している。それを見てホームに訪問する人と利用者や家族との交流もある。地域の美化運動に、利用者と職員がボランティアで参加している。地域の合同避難訓練に利用者や職員が参加し、協力関係をつくりあげている。 |

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|-----------------------|----|-----------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|----------------------------------|
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1. 理念と共有 | | | | | |
| 1 | 1 | ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている | 『共に生きる時間を共有し、地域の中であたりまえ(普通の暮らし)があたりまえであってほしい』という、強い思いが実現出来る様、また、本人の自己選択による好きな時間が過ごせることに力点のおかれた理念で運営されている。 | | |
| 2 | 2 | ○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる | 具体的には、『強制しない』、『自己選択』を理念の中心に据えており、職員は月1回開催されているフロア会議や日々の取り組みでは、申し送りノートに詳細に記入し、毎朝のミーティングで確認するなど内容を理解して、全員が情報を共有して理念が実現できるよう日々のケアに役立っている。 | | |
| 2. 地域との支えあい | | | | | |
| 3 | 5 | ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている | 地域との関わりをもつため町内会にも入会し、近隣の氏神神社では、清掃ボランティアとして奉仕・老人会参加など、積極的に地域との関わりに取り組んでいる。地域の方が、年4回の「縁だより(ホームの機関紙)」を地域の回覧版として回していただくことで地域との交流を深めている。 | | |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | | | | | |
| 4 | 7 | ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる | 全職員が評価の意義を理解し、自己評価には全員が参加しており、各職員の自己評価は、各フロアリーダーが意見を取りまとめ記入した。評価の結果は全員にフィードバックし、会議、委員会で話し合い、サービスの質の向上に活用している。前回の改善取り組みには、管理者はじめ職員から課題を改善する努力が見られた(避難訓練等)。 | | |
| 5 | 8 | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 運営推進委員会は、2か月に一回開催され、情報提供と意見交換がなされている。メンバーは管理者・介護長・利用者代表・家族代表・地域代表・民生委員・愛西市職員・地域包括支援センター職員等で構成されており、事業所の運営状況、行事のお知らせ、外部評価について報告、説明を行った。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|-----------------|----|------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 6 | 9 | ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる | 市の窓口に出向き、介護保険事業運営上の相談をしたり、市主催の介護研修の申請を行っている。市に対しての課題解決には管理者が密に連絡を取っており、月に1～2回は窓口に出向いている。 | | |
| 4. 理念を実践するための体制 | | | | | |
| 7 | 14 | ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている | 家族等が来訪した時には、利用者の日常生活の様子、健康状態について報告している。また、必要に応じて電話連絡している。悠縁の広報機関紙「縁だより」を年4回発行し、家族等に送付している。 | ○ | ホームとしての日常努力が為されているにもかかわらず、家族の中には、まだ不十分だと理解している家族もおられ、正しく理解が得られるような取り組みに、引き続き努力・工夫を期待したい。 |
| 8 | 15 | ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 玄関に意見箱を設置し、いつでも意見を出してもらえるようにしている。家族等が来訪した時に、何でも意見を気軽に言ってもらえる雰囲気づくりをしている。重要事項説明書に苦情相談窓口と市や国保連の相談窓口を明記している。 | | |
| 9 | 18 | ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている | 職員の職場満足度は高く、ここ最近での離職はほとんどない。したがって、職員が交代することは殆どなく、利用者への影響は少なく、馴染みの関係が築けている。ただ、職員の定着度を維持し、業務を継続するためには、管理者は職員を共に働く同志として手厚くサポートする等の努力もしている。 | ○ | 職員には名札がないため、わからないというご家族からの声もあるため、ユニットのどこかに職員の案内として顔写真と名前を掲示することも検討することも期待したい。 |
| 5. 人材の育成と支援 | | | | | |
| 10 | 19 | ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 職員の育成は各フロアリーダーに任せ、一日の流れを役割分担して業務中に問いかけ、指導している。他に広報委員会、感染予防委員会、身体拘束0(ゼロ)委員会、行事レクレーション委員会等があり、各リーダーが中心となって職員育成に取り組んでいる。外部研修の機会も確保し、参加は公務出勤扱いとしている。研修の成果は、事業所内で伝達研修を行うことで、職員全員の技能向上に役立てている。 | ○ | 職員の育成については、今後も引き続き、非常勤職員にも参加を促したい。また、ホーム管理者が同一敷地内とはいえ、複合施設経営者を兼務して多忙であるため、現場の職員との橋渡し役を務める基幹職員の育成にも期待したい。 |
| 11 | 20 | ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 管理者は、地域の事業者の研修会講師として出向いている。研修生、実習生も積極的に受け入れ、介護サービスの質の向上に取り組んでいる。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|------------------------------------|----|---------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|-----------------------------------|
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | | | | |
| 12 | 26 | ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している | 事業所見学を実施したり、入居前に、本人の希望、家族の意向を把握したうえで、自宅を訪問してADL(出来ること・出来ないこと)や、生活環境を確認し、本人の生活歴、趣味、在宅での生活等を把握している。利用開始前に、事業所内で職員全員でシミュレーションを実施し、その人に関する知識と実践を確保した後、利用者、家族と相談を重ね、本人が馴染めるようにしている。 | | |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | | | | | |
| 13 | 27 | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている | 一人ひとりの生活歴をもとに、利用者との日々の会話から生活の知恵を学び、調理(旬の食の調理法)、編み物、刺繍、農作業を教えてもらう等、一方的な介護にならないよう支え合う関係づくりをしている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 1. 一人ひとりの把握 | | | | | |
| 14 | 33 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 一人ひとりの思いを大切に、日々の会話から何を望んでいるかを把握するよう努めている。入居後も家族や友人等から得た情報を参考に、職員間で意見交換したり、業務報告を通じて情報を共有するなど、実像をより理解し、安心して過ごせるよう努めている。 | | |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | | | | | |
| 15 | 36 | ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している | 利用者の希望、家族の意向をもとに、毎月のフロア会議で職員全員が意見を出して作成している。計画作成には、月1回以上の体重チェック、ADL変化を参考に、各職員の意見を重視し、筋力低下に対して、立位保持から歩行に至るまでの具体的リハビリ計画を含める等、その人の状態に合わせた利用者本位の介護計画を作成している。 | | |
| 16 | 37 | ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している | 6か月毎の計画見直しの他、毎月のフロア会議で、利用者日々の変化や職員の気づきを全員で話し合い、職員の提案をもとに新たな計画作成をしている。利用者日々の変化や職員の気づきは、申し送りノートに日勤職員は黒ペン、夜勤職員は赤ペンで詳細記入して、各職員は毎日、申し送りノートを確認して押印し、その内容を職員全員で共有し、見直し以前との変化にも対応できるようにしている。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|----------------------------------------|----|---------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|----------------------------------|
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用) | | | | | |
| 17 | 39 | ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている | ホームは、通所介護、認知症対応型通所介護、小規模多機能型居宅介護を併設している複合介護施設であり、地域にある様々なニーズに対応している。また、ホームには、医療連携体制があり、協力医療機関の月2回の往診を実施している。 | | |
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働 | | | | | |
| 18 | 43 | ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 利用開始時に、利用者、家族の希望を確認し、希望する医療機関を選択することができるようにしている。協力医療機関では、月2回の往診を実施している。協力医療機関の病院、診療所への通院には、無料で職員が付き添い通院介助しているが、協力医療機関以外の病院等を受診する場合には、有料で職員が付き添い通院介助している。 | | |
| 19 | 47 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している | 本人の意思、家族の意向を確認し、ホーム関係者と相談を重ね、方針を共有している。ホームでは、利用者が安心して最期を迎えることができるよう、サポート体制を確立している。今年度、ホーム内で4名の看取りの実績がある。 | | |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | | | | | |
| (1)一人ひとりの尊重 | | | | | |
| 20 | 50 | ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない | 一人ひとりを尊重し、その人の個性に合わせ、いやな思いをさせない言葉をかけ、対応している。機関紙を地域に回覧版で回す時も、利用者の顔写真などは家族の了承を得て掲載されている。個人情報を記載した記録、文書類は、事務室で管理している。 | | |
| 21 | 52 | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 一人ひとりの希望に応じ、その時の体調に配慮し、その人のペースに合わせた過ごし方をしてもらっている。日々の会話の中でその人の希望を把握し、希望者には学習療法(公文教室)、体操、歩行訓練、折り紙、貼り絵等、残存能力を活かしたレクリエーションを楽しみながら、その人らしく過ごせるよう支援している。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|-------------------------------|----|---------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|--------------------------------------------------------------------------------------------|
| (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 | | | | | |
| 22 | 54 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 利用者の希望や好みに合わせた献立の食事で、利用者はマイペースで食事をしている。食事の準備、後片付け、テーブル拭き、お茶の用意、食器洗い、食器拭き等、その人の残存能力に合わせて、利用者と職員と一緒に作業している。晴れた日には、南側ウッドデッキでも食事を摂る場合もある。 | | |
| 23 | 57 | ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している | 入浴は、利用者の希望に応じ、午前又は午後に入浴できるようにしている。その人のその時の体調により、清拭、足浴に変更することもある。入浴を好まない人には、職員が交替して介助する等、職員間で連携して入浴できるよう対応している。季節の柚子湯、菖蒲湯等、楽しんで入浴してもらえるようにしている。 | | |
| (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | | | |
| 24 | 59 | ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | 利用者の得意な分野を活かし、その人の役割をつくり上げている。編み物、小物づくり、刺繍、農作業等、その人の興味を持っている楽しみごとを利用者と職員と一緒にしている。庭の畑では、農業委員会を中心に、利用者の指導で他の利用者と職員と一緒に作業し、野菜、果物を育てている。訪問調査日には、利用者にお茶のお給仕をしていただいた。 | | |
| 25 | 61 | ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している | 利用者の外出希望に応じ、近隣の寺や神社へ、田圃、畑、トマトハウスの間道を通り、機能訓練を目的とした散歩に出かけている。散歩をすることで季節感を感じたり、地域の方との交流ができています。時として変化を付けるため、津島神社に初詣で行ったり、桜の季節には花見、夏には大相撲名古屋場所見物にも出かけている。 | | |
| (4) 安心と安全を支える支援 | | | | | |
| 26 | 66 | ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる | 施設内の防犯のため、玄関は夜9時から朝5時までは鍵をかけている。職員は、鍵をかけることの弊害を十分に理解している。また、居室において少数の利用者が自室の鍵を生活習慣でかける人もいるが、緊急の場合は職員が対応できるように外側からも開錠できるようになっている。 | | |
| 27 | 71 | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている | 年2回、利用者も参加して避難訓練を実施し、避難方法、経路、場所を確認している。災害対応連絡網を整備し、地域の合同避難訓練に参加している。自動火災報知機、火災通報装置、消火器を設置している。スプリンクラーの設置も現在検討中である。災害用備蓄品として、水と乾パンを確保している。 | ○ | 災害(特に東海地震を想定した)備蓄品について、飲料水・食料品等について利用者が高齢者であり、体力的にも虚弱者であり、特に咀嚼に難点があることを前提にした備蓄品の配慮にも期待したい。 |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|---------------------------|----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|----------------------------------|
| (5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 | | | | | |
| 28 | 77 | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | バランス良く栄養摂取できるよう、一人ひとりの状態に合わせた内容の食事で、毎食後、利用者の食べた量をチェック表に記録している。水分確保には、起床時から定期的に必ず摂取できるようにして、その人の飲んだ量をチェック表にて記録している。糖尿食についても下ごしらえまでは同じで、味付け時に2通りの味付けをするなど工夫をしている。 | | |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | | | | | |
| (1)居心地のよい環境づくり | | | | | |
| 29 | 81 | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | ホームの共用空間は、ゆったりとした設計になっており、整理・整頓が行き届き、快適な空間になっている。広々とした居間は、南側全面ガラス戸で自然光が入り、明るい雰囲気になっている。台所にも自由に出入りが出来る。居間には、利用者の手作りの折り紙、貼り絵等の作品を掲げ、季節感にあふれている。 | | |
| 30 | 83 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 居室には、全室ナースコールを設置し、緊急時に対応することができるようにしている。自宅で使い慣れた整理タンス、小物入れ等を持ち込み、今までの生活環境を変えないよう、安心して居心地良く過ごせるよう工夫している。入居以前から使用していたと思われるテレビが設置されていたり、動物好きが伺える写真が多く飾られている部屋もあった。 | | |